

第2回 次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）策定に関する有識者会議 議事要旨

日時：令和8年2月9日（月） 15:00～17:00

場所：南部合同庁舎5階第2、3会議室

1. 資料2-1 第1回意見募集実施報告について

子ども・若者モニターアンケートについて

安藤委員

- ・ 子どもアンケートで「事故の安心・安全」が最も求められていることについて、背景を深堀していただきたい。
 - 道幅の狭さや生活道路への車流入など、日常的な危険環境が子どもの不安につながっている可能性がある。（澤委員）
 - 10代の死因に交通事故が多いことや安全教育の影響が、関心の高さに表れている可能性がある。（當山委員）
 - 道路の安全性や防犯について十分に整理できていない可能性があるため、精査したい。（事務局）
- ・ 子ども・若者モニターアンケートについてはモニターの偏りにより多様な子供の意見を反映できていない可能性がある。

2. 資料2-2 皆様から寄せられたご意見の要旨（案）について

県民意見のとりまとめについて

神谷委員

- ・ 意見数やサンプルの居住地域、オープンハウスの実施場所等を明記することでより実態に即した立体的な整理を行うことができる。地域と属性に焦点を当てながら議論していく必要がある。

金城委員

- ・ 車内混雑や防犯、不審者など公共交通の箱の中の意見が少ないのではないかと。
 - 資料2-2 要旨案の中で「公共交通」に関する項目として意見を集約している。（事務局）

今後の進め方について

神谷委員

- ・ 今後の進め方について、SNSのような気軽に継続的に意見を募集できる仕組みがあると良いのではないかと。

3. 資料 3-1 骨子の概要と整理方法、資料 3-2 次世代交通ビジョンおきなわ (仮称) 骨子案について

未来像の整理、交通システムの課題について

金城委員

- ・ 未来像 4 項目の整理について、ありたい将来の姿を交通の切り口で詳細化するところまでは理解ができるものの、その後未来像が抽象になってしまう。
- ・ 未来像(1)「住む地域に関わらず、誰もが、どんなライフステージにおいても、自分らしい生き方や挑戦を選べる社会」は主語が長いように感じる。
- ・ 未来像(4)は「柔軟性」「持続性」といった意味が読み取れる一方、対応する沖縄 21 世紀ビジョンは「文化・歴史・風土」「自然環境との共生」といったニュアンスが読み取れるため、意味合いが変わっているのではないか。
- ・ 交通システムに見られる課題でも、議論が未来像(1)に偏っているように感じる。未来像(4)についても維持管理や老朽化に偏っており、風景、文化、自然との共生の観点を踏まえる必要があるのではないか。
 - 骨子案では自然や風土の内容を含めているものの、未来像のタイトルにした段階で消えてしまった。改善したい。(事務局)

大谷委員

- ・ 未来像(1)の「自分らしい生き方」「挑戦」は交通ビジョンとして広すぎるように感じる。生活のしやすさや、働きやすさ、安全・安心の観点で再整理できるのではないか。
- ・ ありたい将来の姿の詳細化の文章の方が未来像として交通の課題の整理に繋がるのではないか。

安藤委員

- ・ 未来像と社会像について、どのような言葉の使い分けをしているのか。
 - 沖縄 21 世紀ビジョンですでに将来像が示されているため、表現を変えるという意味で「未来像」として整理してきたが、説明が不足していた。(事務局)
- ・ 将来像から未来像への整理で具体から抽象に戻り、交通課題との接続が分かりにくい。本来は順々に具体化していくにも関わらず、途中で立ち返る構造になっているのが原因ではないか。
- ・ 特に未来像(4)は当初のニュアンスから変化している。

神谷委員

- ・ 通院・通学など保障すべき移動と、余暇などの移動は性格が異なり、それは属性と地域によって大きく必要性が異なる。今の未来像は包括的であり解釈の幅が広がりすぎているため、地域差・多様性がある部分を分けて書いた方が良いのではないか。

- ・ 意見のとりまとめにおいて背後にある理由に着目するとあったが、そのステップが薄れている。全ての課題を交通で解決する必要はなく、どこを交通が担うのか整理した方が良い。

石垣委員

- ・ 21 世紀ビジョンで将来像が示されているのに対して、改めて将来像を立てる理由について整理をしていただきたい。
- ・ 新たな未来像を立てるより、その社会に資する交通を作るという価値観を先に示し、その後に課題と必要な交通システムを整理した方が良いのではないかな。

澤委員

- ・ 交通システムに見られる課題を整理し、県民が考える将来像とどう接続するかが重要だと考える。
- ・ 未来像は「交通」の役割が見えないように感じる。交通のキーワードを具体的に未来像に入れるべきである。これにより、未来像と交通システムの課題が接続できるのではないかな。
- 「交通に関するだけの未来像」ではなく、人を主語としたビジョンにしたいという考えがあった。(事務局)

當山委員

- ・ 沖縄ビジョンの将来像がある中で、改めて未来像を作成する意図を教えてください。
- ・ 未来像には交通が分かるような記載が必要なのではないかな。
- ・ 未来像(3)「心身ともに健やかで安心して暮らせる社会」について、へき地医療などの専門分野の視点が必要であると共に、医療分野などの他分野もビジョンに取り入れるべきと考える。

福田委員

- ・ 提案された未来像の 4 項目はそれぞれ自己実現、経済、健康、持続性を示しているように感じられ、バランスが取れているように感じる。
- ・ 一方で、未来像の整理では、21 世紀ビジョンと県民意見が並列に整理されているため、未来像から交通システムの課題を議論する間に論理の飛躍があるように感じた。

事務局

- ・ 未来像について、交通のありたい姿の詳細化の方を採用することなど含めて再検討したい。

今後のビジョンで検討すべき内容について

澤委員

- ・ 沖縄は自動車から公共交通への転換が必要だが、転換にあたって乗換や待ちに対する抵抗が発生する。公共交通の利用を促進するためには、待つことをネガティブからポジティブへ変換することが重要であり、公共交通の乗換・待ちに関して将来の交通システムの課題として議論すべきではないか。

當山委員

- ・ 公共交通への転換にあたって、高齢者の歩行可能距離を加味すると、停留所配置を細かくするなどが必要ではないか。
- ・ 人口減少・少子化が既に進んでいる地域もあり、今後の交通対策をどう考えるのか早急に検討すべき。

神谷委員

- ・ 交通結節点の観点では、現状のビジョンでは県民から軸や拠点に関する意見が明確に出ていない。
- ・ そのため、ビジョンの検討では、県民が思い描く未来像と公共交通計画・都市交通マスタープランが描く社会の未来像という異なる視点の未来像の整合が重要と考える。書き方は難しいが、県民が思い描く姿以外に、ビジョンの中で県民の責務、観光客の責務という視点があっても良いのではないか。
- ・ 今年度にネットワーク図の作成を検討することだが、現時点の県民意見のみでネットワーク図を作成することは難しく、かえってミスリードとなる可能性がある。まずは、地域別に検討の方向性を示したうえで、次年度に詳細な検討を行うのが良いのではないか。

4. 資料4 ビジョン策定プロセスにおけるR8年度以降のPIについて

複数の代替案について

福田委員

- ・ 代替案は具体の交通プロジェクトにおいて案を比較する意味での代替案なのか。
 - 資料3-2の32ページで示している「将来の交通の姿（複数案）」を代替案としている。（事務局）
- ・ 代替案の記載について、この会議は交通プロジェクトの代替案を検討するわけではなく、将来の交通のあり方を議論する場だと考える。記載内容の使い分けをお願いしたい。
- ・ また、今時点で代替案と記載しているものは、何かしらの交通施策を実施した結果、どのような社会が実現したかのアウトカムイメージのようなものとする。
 - 現時点では具体的な進め方を整理しきれていないが、交通課題と将来の複数の交通の姿のメリット・デメリットを整理していきたい。（事務局）
- ・ 仮に現在の資料3-2、32ページのような代替案を設定した場合、具体のプロジェクトが無い中でどのようなワークショップのプロセスを取るのか。

石垣委員

- ・ 代替案は資料3-2 骨子案、32ページのような示し方のままであると、県民にとって選択がしづらい状況となってしまう。ワークショップで考えてほしいポイントを整理していただきたい。

安藤委員

- ・ 資料3-2 骨子案、32ページ複数の将来の交通の姿は重複する可能性があり、代替案として比較することは困難ではないか。
 - 評価の視点として、車中心の社会か、公共交通中心の社会か、といった観点を想定している。（事務局）
- ・ その人のライフステージや行動で交通のあり方は変わるため、どのような将来の姿を想定して評価するのが曖昧なままワークショップを進めると上手く意見が得られない可能性がある。

地域ごとの交通のあり方の検討に向けて

石垣委員

- ・ ステップ2では地域個別の課題を意見聴取するよう見えるが、資料3-2 骨子案の36ページで示されるステップ2の主要な論点には地域別の問いが無い状態であり、地域別の問いかけはどのような形で実施するのか。
- ・ 地域毎の意見把握にあたって、都市計画区域毎に整理を行うと地域の実態を把握しやすいのではないか。ビジョンで扱う地域の区分をどのように整理するか今後示して頂きたい。

神谷委員

- ・ 地域区分は都市計画区域だけでなく、公共交通のサービスレベル等で区分する方法もある。

ヒアリング・ワークショップの対象の選定について

神谷委員

- ・ 外出したいができない状況の人に対して交通としてどうあるべきか考える必要がある。介護関係の方も含めてヒアリングを行うのが良いのではないかな。

大谷委員

- ・ ワークショップメンバーを早い段階から準備すべき。既存モニターや既存アンケート等の活用が考え得る。また、次世代の観点で若者の割合をどの程度にするかも検討していただきたい。

當山委員

- ・ 高齢者へのヒアリングについて、当事者の意見が重要である。自治会や老人会、社会福祉協議会、ケアマネジャーなどが候補となり得る。

事務局

- ・ わった〜バス党の会員や高校への出前講座など、幅広く意見を募集したい。ワークショップだけでなく、ステークホルダーや市町村からの意見聴取も実施予定。若者の割合が低いことも踏まえ、参加者を選定する。

今後の有識者会議の進め方について

石垣委員

- ・ ステップ2の進め方についてはどのタイミングで議論できるのか。
 - ステップ2を始める前に、改めて有識者会議へ諮る。(事務局)

福田委員

- ・ 具体の将来の交通のあり方について議論するため、今後の有識者会議の中で、ワークショップの具体的な取組の方針を提示していただきたい。
 - ワークショップを行う際に、改めて有識者会議へ諮り、具体案を提示する。(事務局)